

第5回 江別市廃棄物減量等推進審議会（要旨）

日時：平成22年11月16日（火）13：30～

場所：野幌公民館視聴覚室

出席者：（委員）押谷会長・佐藤副会長・林倉委員・星委員・最上委員・金井委員・白崎委員・浅野委員・中井委員・亀田委員・川守田委員（11名）
（市）柴垣部長・松下次長・苅谷室長・種市課長・堀課長・今野参事・明石課長・渡辺主幹・福島係長・中島係長・渡邊主任・高島主任（12名）

傍聴者：1名

（1）開会

種市課長：本日の出席者は、13名中11名で本審議会が成立していることを報告します。
本日は傍聴者が1名おりますのであらかじめ報告します。

（2）議事

① 審議事項

○ 江別市一般廃棄物処理基本計画の策定について

押谷会長：前回に引き続き基本計画案について審議します。前回は、43ページまで事務局から説明を受けていますので、今回は、4つの基本方針に基づく35の施策について審議します。44ページの基本方針1からについて事務局より説明願います。

種市課長：各施策について、それぞれ担当から説明します。

【施策ごとに担当から説明】

【発生・排出抑制の啓発・支援】

押谷会長：今の説明は、「発生・排出抑制の啓発・支援」の施策の説明だけではなく、施策全体にまたがるようなところもありましたが、文章としてどこかに入れる予定のものはありますか。

種市課長：今の説明は、広範で長すぎました。この施策の説明としては、要するにイベントやマイバック持参運動や講演会での啓発など、他に属さない施策を横断的に取り上げ、あらゆる場面での3Rを啓発支援することと捉えてください。

押谷会長：最初の説明からは、施策展開の前段としての文章といたしますか、前書きのようでしたが。

種市課長：それだと基本方針の内容となるので、ここでは、基本的には個々の施策を掲げることとなります。

林倉委員：個別には具体的に書いてありますので、最初の説明は、これら施策の前段にく

るようにイメージしましたが。

川守田委員：35ページの説明になるのではありませんか。市民にアピールする場合、それを施策にどう置き換えていくのか配慮が必要と思います。

種市課長：33ページの課題が現状と施策のつなぎ部分。これを土台に基本方針が成り立ち、施策段階で個々の具体的なものとなるのが基本スタイルになります。

佐藤副会長：前段とか全体の説明は今までにありました。これからは、具体的な個々の項目を説明すれば良いのではありませんか。

種市課長：そのような意図で構成したつもりでしたが、最初の説明は、個別施策の説明の範囲を超えたものでした。

押谷会長：課題があり目標を設定し、そのための施策があり、今はこの43ページ以降の施策の説明となっています。今までのことを踏まえて施策の説明を進めていきます。

【広報機能の充実】

中井委員：広報などは字が小さく見づらいので、多くの人に見てもらうには字を大きく一目で分かりやすいものが良いと思います。

金井委員：回数は少なくとも参考となることを掲載することでごみの減量につながるのではありませんか。

川守田委員：計画の減量目標はグラムですが、日常はリットルの袋を使用しています。何か繋げるアイディアはありませんか。

種市課長：ごみの世界は重さが基本となり、なかなか難しい。何かに換算できると分かりやすいと思いますが。

亀田委員：市民は、見ているようで見ていないので、見出しなどで分かりやすく、何回も工夫してお願いします。収集現場からの声なども掲載してはいかがでしょうか。

林倉委員：現場の声はたくさんありますが、電球などは未だに資源物として出されます。定期的な啓発の掲載が必要です。収集対象物でなければ収集しませんし、10月からは制度も変わり厳格に行っています。

種市課長：ごみコミはトピックス、手引きなどはルールとしたほうが市民は見やすいので、広報えべつと3つの広報物の棲み分けをすべきと思いますが、そうしたことをこの施策で行っていきます。

【環境教育（学習）の推進】

種市課長：参考に資料を配付します。（パンフレット「江別市のごみ」配付）

星 委員：この資料は、小学校3・4年生のレベルではかなり難しいと思います。子どもたちが見るときには、具体的に紙パックをいくつ集めたらトイレットペーパーになるとか、1人1日の排出量もりんご1個位の量などと例を載せると分かりやすいと思います。

【施設見学の充実】

佐藤副会長：環境教育の中に施設見学は含まれるようなものなので一つにしてはどうです

か。

押谷会長：まとめてはということですが、どうですか。(了) その方向で修正を検討願います。

種市課長：施設の場所が遠いので水道部で実施しているような見学会を年に1、2回実施し、施設についての教育、啓発的なことをできたら良いと考えています。

押谷会長：環境クリーンセンターで毎年「八幡エコフェア」というイベントをしています。市でもそのような機会を設けることも教育になります。

川守田委員：広報、環境教育と関連するが、以前に展示を行った際、ビデオなどは小学生が興味深く見ていました。「江別のごみ」というビデオを作成し、公民館などで放映することで、その場に行った時に直ぐに見ることができれば役に立つのではありませんか。

中井委員：環境広場、消費者フェアでも環境について行っていました。消費者まつりの際にエコフェアを開催し随分人が来ていました。今年からなくなりましたがもったいないと思います。

林倉委員：施設見学で市民から出されたものを直接見ることができるのがリサイクルセンターです。収集現場を見ることができれば良いのですが、プライバシーの問題があり難しいと思います。危険ごみの分別も見ることができるので、是非、リサイクルセンターの見学をPRしていただければと思います。

種市課長：いろいろな意見がでましたが、それらを含めこの施策の中で検討していきたいと思います。

【出前講座の充実】

金井委員：江別市女性団体協議会としても、生ごみ堆肥化の普及啓発を行っていますが、家族の単位が小さくなりごみが少なくなったためか、取組む方が次第に少なくなってきました。段ボールの大きさなど、場所が狭くてもできるようにしたいなどの意見もあり、工夫が必要と思います。

星 委員：広報機能、環境教育など全てに通じますが、子どもが見て面白い、市民にこうしてほしいと思った時に、生活に役に立つことを具体的に分かりやすく伝えることは非常に大事だと思います。上から目線ではなく一緒に何かをやっていく立場で、ドキドキ、ワクワクするものを企画すると市民も目線を向けてくれるのではありませんか。

中井委員：江別消費者協会では生活相談のことで年間行事を組む前にお知らせして結構な件数をしています。上から目線ではなく実際に相対してやらないと、待っていても来ません。ごみを減量するには、こちらから出向き出前講座をして、団体に一生懸命働きかけないと難しいと思います。

亀田委員：正論は面白くないので、専門家を活用し、経験するなかで、いろいろなスキルがある方との連携も必要と思います。こうした点も、もう少し考えていただきたいと思います。

【市民団体等の育成・支援】

種市課長：団体等を育成・支援としているが、協働・協力などとした方がふさわしいと思います。

押谷会長：検討願います。他にはありますか。(なし)

広報等による教育・啓発の説明が終了しましたが、いろいろ建設的な意見もありました。これまでに、全体を通して質疑はありますか。

星 委員：「充実」という言葉が続いているが一般的には分かりづらいと思います。

押谷会長：他にありますか。(なし)

それでは次回までに気になる点、変えたほうが良いと思われる点をまとめてきてください。

以上をもちまして、本日は終了いたします。ありがとうございました。

15：35 終了